

生態人類学は挑む MONOGRAPH 7

ミオンボ林の母系社会

杉山祐子 著

A5判並製 340頁 予価：本体3300円+税
ISBN978-4-8140-0420-1 C3339

刊行予定：2021年6月上旬 条件：新刊委託
読者対象：専門
おすすめの棚：生態人類学
おすすめ度：★★★☆☆

◎別離（わかれ）でもなお、つながり続ける社会

ミオンボ林があればどこへでも——。ザンビア北部、林の恵みで生きる焼畑農耕民ベンバ。女性同士のネットワークが基盤となる母系社会は、世帯の垣根をこえ、分裂も離村も織り込んで自在に移動する。貨幣経済や政策による農法の制限、それらすべてを飲み込んでなお樹上伐採と焼畑農耕を選ぶ彼らの「食物の道」。

◆杉山祐子：弘前大学人文社会科学部教授

生態人類学は挑む MONOGRAPH 8

生業活動と子育て

高田 明 著

A5判並製 278頁 予価：本体3000円+税
ISBN978-4-8140-0428-7 C3339

刊行予定：2021年6月中旬 条件：新刊委託
読者対象：専門
おすすめの棚：生態人類学
おすすめ度：★★★☆☆

◎遊びと模倣が映す、狩猟採集社会の家族のかたち

「ヒト本来の子育て」がみられるとされる狩猟採集社会。しかし彼らの子育ては本能や遺伝的差異ではなく、子どもと養育者そして環境が織りなすコミュニケーションから創造されていた。始原的な母子関係に嵌め込もうとする理論を超える彼らの多様性。授乳パターンや赤ちゃん体操を分析し、遊びと模倣が調和を生む多様な「子育て」に迫る。

◆高田 明：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科准教授

学術選書 104

日本書紀の鳥

山岸 哲・宮澤豊穂 著

四六判並製 288頁 定価：本体2200円+税
ISBN978-4-8140-0405-8 C1345

刊行予定：2021年5月中旬 条件：新刊委託
読者対象：一般
おすすめの棚：生物、選書
おすすめ度：★★★★☆ 配本ランク：★★☆

◎なぜこの鳥が記されたか？ 生物と古代史の謎

『日本書紀』には数多くの鳥が登場する。『万葉集』も同様だ。ところが登場する種とその頻度に注目すると、明らかに『日本書紀』と『万葉集』には違いがあるのだ。それは何故か？ 分布や形態・生態などの生物学的推論、記述のされ方の違いへの注目など、文字通り文理双方の視点からの考察で、古代人と鳥との関わりの有り様に迫り、政治史の中に現れる生き物の謎に迫る。オールカマー。

◆山岸 哲：大阪市立大学名誉教授
宮澤豊穂：元・中学教員

注文書

4月号②

お申込みは→ 京都大学学術出版会

FAX：075-761-6190

番線印	冊	新刊委託指定	京都大学学術出版会 発行/発売
	ご担当様		【生態人類学は挑む MONOGRAPH】 ミオンボ林の母系社会 【5/20 締切】 ISBN 978-4-8140-0420-1 C3339 予価：本体 3300 円+税
番線印	冊	新刊委託指定	京都大学学術出版会 発行/発売
	ご担当様		【生態人類学は挑む MONOGRAPH】 生業活動と子育て 【5/30 締切】 ISBN 978-4-8140-0428-7 C3339 予価：本体 3000 円+税
番線印	冊	注文取扱条件	京都大学学術出版会 発行/発売
	ご担当様		【学術選書】 日本書紀の鳥 【パターン上積】 ISBN 978-4-8140-0405-8 C1345 定価：本体 2200 円+税